

平成30年2月15日

各位

公益財団法人 大山健康財団
理事長 竹内 勤

平成29年度「第44回大山健康財団賞」及び「大山激励賞」受賞者 並びに「第44回学術研究助成金」受贈者決定のお知らせ

大山健康財団は、このほど平成29年度の「第44回大山健康財団賞」及び「大山激励賞」受賞者各1名、並びに「第44回学術研究助成金」受贈者10名を下記の通り決定しました。「大山健康財団賞」は、発展途上国で長年医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者に賞状、記念メダル、副賞を贈呈するもので、「大山激励賞」は、発展途上国で短期間ながら医療協力を尽くし、特に感染症対策に尽力した医療関係者で、今後とも発展途上国においてなお一層の活躍が期待される方に賞状及び副賞を贈呈するものであります。また、「学術研究助成金」は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症（一般細菌感染症、ハンセン病、リケッチア症、寄生虫病）に関する基礎的あるいは臨床的研究及び疫学的研究に従事されている若手研究者より申請のあった研究課題の中から選考された研究課題に対し助成金を贈呈するものであります。

なお、贈呈式は平成30年3月15日（木）午前11時30分から霞が関ビル35階霞ヶ関東海倶楽部（東京都千代田区霞が関3-2-5）で各賞並びに助成金併せて執り行います。

記

平成29年度「第44回大山健康財団賞」

（敬称略）

【受賞者】 ^{よしだ}吉田 ^{おさむ}修 ☆特定非営利活動法人 TICO 代表理事
(TICO : Tokushima International Cooperation)
☆医療法人 さくら診療所 理事長
◇医師 (満59歳)

【業績内容】

吉田修氏は、宮崎大学医学部を卒業後、病院勤務の傍ら1989年から青年海外協力隊に参加され、アフリカの小国マラウイで入院患者900人に対し医師5人という劣悪な状況の中で2年間外科医として勤務され、帰国後、2年ほど病院勤務するも途上国支援をしたいという思いが拭えず、アジア医師連絡協議会（現在はAMDA）のスタッフとして日本での臨床の傍ら様々な途上国支援、自然災害や紛争地への緊急支援（イラン震災やレバノン空爆、パプアニューギニア津波、ルワンダ内戦、モザンビーク帰還難民支援）に携わられた。1993年に「徳島で国際協力を考える会」（後にTICOに改称）を設立され、1995年よりザンビアの地域保健医療活動に関わり、1997年よりTICOとして本格的にザ

平成 29 年度「第 44 回学術研究助成金」受贈者

(敬称略)

氏 名	所属・役職	研 究 課 題	助成額(円)
あおぬま ひろか 青 沼 宏佳	東京慈恵会医科大学 熱帯医学講座 助教	病原体媒介節足動物を対象とした 新規診断キットの開発	1 0 0 万
いでの さとし 出野 智史	慶應義塾大学医学部 麻酔学教室 助教	術後肺炎予防を主眼とした漢方製 剤による免疫補助療法の開発－肺 防御因子増強と肺組織保護効果の 検証－	1 0 0 万
おがわ もとひこ 小川 基彦	国立感染症研究所 ウイルス第一部 主任研究官	インドネシア・ボゴール市および 周辺地域のダニや動物におけるリ ケッチア症の浸淫状況に関する分 子疫学調査	1 0 0 万
おばら ひであき 尾原 秀明	慶應義塾大学医学部 外科学 准教授	手術部位感染に対するオラネキシ ジングルコン酸塩消毒薬 vs ポビ ドンヨード消毒薬の多施設共同ラ ンダム化有用性比較試験	1 0 0 万
かみむら だいすけ 上 村 大輔	北海道大学 遺伝子病制御研究所 講師	ゲートウェイ反射に基づいた中枢 神経系への細菌ゲートの解析	1 0 0 万
たにぐち ともよ 谷 口 委代	群馬大学大学院 医学系研究科 助教	腸内細菌を含む新規宿主－ マラリア原虫相互作用の解明	1 0 0 万
つばかわ だいご 坪 川 大悟	北里大学医学部 助教	経皮侵入性蠕虫ベネスタチンの終 末糖化産物受容体(RAGE)を介す る機能解明	1 0 0 万
なむぐん ほう 南 宮 湖	公益財団法人ライフ・エク ステンション研究所付属永 寿総合病院呼吸器内科 副部長	肺非結核性抗酸菌症の疾患感受性 遺伝子の同定と新規創薬への発展	1 0 0 万
にいくら まもる 新 倉 保	杏林大学医学部 感染症学講座 講師	脂肪組織が関わる新たな妊娠マラ リア病態発症機構の解明と診断技 術の開発	1 0 0 万
ひらまつ ゆきひろ 平 松 征洋	大阪大学微生物病研究所 分子細菌学分野 助教	百日咳菌による咳発作メカニズム の解明と治療薬開発への応用	1 0 0 万
			1,000万

お問合せ先：公益財団法人 大山健康財団 事務局

東京都江戸川区平井 5-29-4-202

電話 03-3614-7762

以上